

2019/02/24

「神の言葉にとどまる」

■キリストにとどまる

春が近づき、教会の庭の木の枝にも様々な鳥がとまってさえずるようになりました。鳥には必ず羽を休める場所が必要です。人間はどうでしょうか。私たちは、自分の心を休ませる場所として、どこにとどまれば良いのでしょうか。

「イエスは答えて言われた。「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる』と書いてある。」」（マタイ 4:4）

神は私たちに、自分の心を休ませるために神の言葉にとどまるように教えています。しかし、人間には二つの選択肢があります。それは、人の言葉にとどまるか神の言葉にとどまるかという選択です。

クリスチャンとは、神の言葉にとどまる 것을を選択した人です。私たちは、まず初めに「イエスはキリストである」という言葉にとどまりました。その後もずっと神の言葉にとどまり続けられれば良いのですが、つい人の言葉にとどまろうとしてしまいます。

人の言葉にとどまるとは、人の言葉に慰めを求めることがあります。しかし、そうすると、人に気を遣い、人の目を恐れるようになります。心を休めるために人の言葉にとどまろうとした結果、心が疲れ果てるという矛盾が起こります。また、人の言葉にとどまるということは、人から悪いことばを言われると、そこにとどまってしまうということでもあります。もしあなたが、人の言葉に腹を立てたり、文句を言ったりすることができれば、それは人の言葉にとどまっているということです。人の言葉に傷つき、苦しみもするけれど、たまにほめられるとホッとする……、これが人の言葉を求める生き方です。

しかし、神の言葉にとどまるなら、神の言葉があなたを生かし、支えます。神の言葉にとどまろうとする時、神様の顔色をうかがう必要はありません。なぜなら神様は、あなたの行いや能力に左右されることなく、決してあなたを悪く言わず、必ず「あなたは良きものだ」「恐れるな」と言って、励まし慰めてくださるからです。

神の言葉にとどまるか、それとも人の言葉にとどまるか、それは一人一人自由に選択できます。

■神の言葉にとどまるとは

1. 信仰でとどまる

神の言葉には、信仰でしかとどまることができません。理性や知性やしるしによって神を知ろうとするとつまずくと聖書は教えていました。理性は世界を知るためのものであり、神を知るために用意されたものは信仰です。私たちが理性で納得できるのは見える世界のことだ

けで、神がおられる見えない世界を理性で理解することはできないのです。世界の始まりも、永遠も、死後のことも、理性で解き明かすことはできません。時折、聖書の内容が納得できれば信じると言う人がいますが、知性で神を知っても神と交わることはできないので、それは信仰ではありません。信仰で交わるがゆえに、能力に関係なく、大人であろうと子どもであろうと神様と交わることができるのです。それが神にとどまるということです。

2. 聖書の言葉を思う

人から悪く言われて落ち込むのは、人の言葉にとどまっているからです。しかし、神の言葉を心の中に持つなら、神様が助けてくれることを思い出し、神の約束を信じようと奮い立つことができます。それが、神の言葉にとどまるということです。

苦しみ、悲しみの時にしっかりと握りしめることができる御言葉を持ちましょう。どの御言葉でもかまいませんが、たとえば、次のような言葉です。

「あなたは、わたしのしもべ。わたしはあなたを選んで、捨てなかった。恐れるな。わたしはあなたとともにいる。たじろぐな。わたしがあなたの神だから。わたしはあなたを強め、あなたを助け、わたしの義の右の手で、あなたを守る。」（イザヤ 41:9-10）

このような御言葉を心にとめていることによって、苦しみ、悲しみの中でも励まされ、希望を持つことができます。問題にぶつかり、行き詰るたび、人の言葉にとどまるのではなく、神の言葉にとどまりましょう。理性や知性にとどまっていては何もできません。問題にぶつかると、神の言葉だけが自分を励まし、神の言葉だけが本当の希望になると気づくことができます。このことに気づいたら、ぜひそこにとどまり続けましょう。

3. 隣人を愛する

「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛の中にとどまりなさい。もし、あなたがたがわたしの戒めを守るなら、あなたがたはわたしの愛にとどまるのです。それは、わたしがわたしの父の戒めを守って、わたしの父の愛の中にとどまっているのと同じです。わたしがこれらのこととあなたがたに話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたの喜びが満たされるためです。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。」（ヨハネ 15:9-12）

神にとどまるとは、神の戒めを守ることであり、それは、人を愛することです。人を愛するとは裁かないこと、裁かないとは区別しないことです。それは、自分で自分を裁いてもいけないし、人を裁いてもいけないということです。

私たちはよく「自分のせいだ」と言って自分自身を裁いてしまいますが、自分を裁くことをやめるには、神様があなたをどのように扱っているかを知らなければなりません。神は、あなたを赦し、あなたを愛しておられます。あなたがどんなに自分のことをダメだと思う時

でも、それでもあなたを愛していると言われます。私たちは、神様が愛している自分を、自分自身として受け入れなければなりません。自分が思い描く自分、人の目に映る自分ではなく、神様が愛している姿こそが、本当の自分だと受け入れるのです。そして同時に、神様は他の人のこともそのように愛し受け入れていることを受け入れ、人を裁くことをやめなければなりません。つまり、人はそのまで良きものであるということを受け入れて、自分を受け入れ、相手を受け入れることが、御言葉にとどまるということなのです。

神様は私たちに、「あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまるなら、何でも あなたがたのほしいものを求めなさい」（ヨハネ 15:7）と、私たちが人を愛する方向に向かう時、何でもいいから神に求めるようにと語っておられます。神様がこのように私たちを慰める目的は、私たちが神にとどまって、人を愛し、神を愛せるようになるためです。

■あなたの人生の決定権はあなたにある

自分の人生で何を選択するか決めるができるのはあなただけです。私たちはうまくいかないことがあると、何のせいでこうなったのかと、周りのせいにしたくなります。しかし、それは自己放棄です。これをする限り、あなたは自分の人生を生きることができません。どのような状況だったにせよ、過去にその選択をしたのは自分自身です。選択の決定権は自分にあるのです。

アダムとエバは、悪魔に善悪の知識の木の実を食べさせられたわけではありません。悪魔から得た情報によって、自分で選んで食べたのです。周りができるることは情報を提供することだけなのです。

人間は神に造られた素晴らしいものです。人格を持ち、自分で決定する意思を頂いています。自分に決定権があるのですから、自分で神の言葉にとどまろうと選択すれば良いのです。人の言葉にとどまって苦しんでいるのは、自分でそれを選んでいるからです。私たちは、つい慣れ親しんでいる人の言葉にとどまろうとしてしまいます。神の御言葉にとどまるかどうかは、自分で選び、自分で決めることができます。いつその選択を変えるか、それはあなたが自分で選択しなければなりません。神様はあなたに自由意思を与えておられますから、あなたが選んだものを変えることはできません。ただ情報を提供するだけです。

人の言葉にとどまっていると、傷つき、文句を言うことがおかしなことだと気づきません。しかし、自分の人生は自分で選択できると気づくと、神の言葉を選択すればいいことに気づきます。神の言葉は、私たちに力を与えます。傷つき、文句を言うことが習慣化すると、変化を起こすことをあきらめてしまいがちです。どうかあきらめないで、神の言葉にとどまる選択をしましょう。

■行き詰り

さて、神の言葉にとどまり、隣人を愛する選択をすると、必ずぶつかる壁があります。それは、隣人を愛せない、裁くことをやめられないという現実です。

テレビを見ながら文句を言い、ラッシュや渋滞につぶやき、上司や先生やお店につぶやき、人に不快なことを言われたらその言葉にとどまって言い返し、いやなことがあると何かのせいにし、疲れ果てて日曜礼拝に来て、メッセージを聞き「なるほど」と思っても、一步教会の外に出た瞬間もとに戻ってしまう、(あるいは「今日も同じ話で面白くなかったな」とここでもつぶやく)、……この現実にぶつかるのです。

「神はすべての人を罪の下に閉じ込めた」と聖書にあります。神の言葉にとどまり、従おうとしても、すべての人が、どうしてもできないという現実にぶつかるのです。その結果、多くの人が神の言葉にとどまろうとすることをやめてしまいます。どんなに頑張っても、どうしても神の言葉にとどまることが出来ないという絶望を避けようとするためです。もし、それでも神の言葉にとどまろうとするなら、絶望を受け入れ、ただ「神様助けてください」とするしかありません。これこそ、神の言葉にとどまり続けることができるからくりなのです。

この時、絶望できるかどうか、絶望したらどうするか——これが重要な選択です。絶望して神様に助けを求める時、神様はこんな不信仰な私を赦し、愛してくださることを、私たちは靈的に察知します。すると、無条件で神様を愛することができるようになり、神様との関係が形式的な関係から友の関係に移って行くのです。神様はあなたと本音を語り合う親しい関係になることを望んでおられます。私たちが、自分を隠す飾りをすべて取り去って、本音で神を求めるために、神様は私たちが絶望するように導いておられるのです。

こうして私たちは、神の力によって神の言葉にとどまる勇気を持つことができるようになっていきます。そのためには、神のことばにとどまり、神様に助けを求めるなどを、あなたが選択しなければなりません。

「わたしがこれらのこととあなたがたに話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたの喜びが満たされるためです。」(ヨハネ 15:11)

本音で話せる相手、自分の気持ちを 100%無条件で受け入れてくれる相手がいるということは、なんという喜びでしょうか。御言葉にとどまり続けるなら、この神の喜びが満たされ続けるのです。

神様を遠くに感じるのは、神様の前に正直な自分を表していないからです。こんな自分は神様に受け入れられないと恐れているために、本音を語れないのです。しかし、神様はありのままの自分を愛してくださっていると知れば、もっと神様に近づくことができ、誰よりも親しい友の関係を築くことができます。

神様があなたを絶望に導き、どうすることもできない状態に置くのは、誰よりもあなたを愛しているからであり、あなたと親しい関係を築きたいと願っておられるからです。ありのままの自分で、ただ神様のあわれみと助けを求めましょう。そうすれば、神様に愛されていることを知り、神様と友の関係を築くことができます。